

令和5年度 美又まちづくりセンターの主な取組

事業名

干し大根づくり&美又大鍋交流会

P

●事業実施に至った背景、目的

小学校の廃校、保育園の廃園があり地域から子どもの声が聞こえなくなり、その後少子化の動きが加速。現在では小中学生が10名を切る状況となっている。一方地域の高齢化も年々進行している。

こうした中で、地域を守る高齢者を元気にするためには子どもや若い年代の方との交流が有効だと、以前からセンター活動に地域外も含め親子等に参加を呼び掛け、異世代交流事業を行っている。

●事業を実施するまでの過程（関係機関との打ち合わせ等）

- ・センター運営推進委員会での打ち合わせ
- ・地域講師等の協力依頼

D

●事業の概要

- チラシで地区内全戸と美又応援者等に参加呼び掛け
- 当日 参加者で
 - ・センターの畑から大根を抜く ⇒ 大根を洗う ⇒ 大根の皮をはぐ
⇒ 大根を輪切り、穴あけ、わら通し ⇒ 外に干す
 - ・スカットボール、ルーレットゴルフで交流
 - ・干し大根や美又で栽培した野菜、地元で加工した豆腐などを使った豚汁と黒米むすびでお食事交流

C

●事業実施後の振り返り

- インフルによりキャンセルが数組出たが参加者32名（子7名、県大生4名、地域21名）で楽しく交流できた。
- 若い人と一緒に作業やゲームを行い交流ができたことが地域の方の元気に繋がった。
- 地区外参加者が美又地区で楽しいと思うことで今後の地区の応援者として期待できる。

A

●令和6年度以降の方向性

小学校も保育園もなくなった地域に色タイベント内容を工夫し、他所の地域からもできるだけ子どもや、若い人を呼び込み地域の方との触れ合いによる絆を深め、今後の美又地区の発展に繋げていきたいと考えています。

